
先生だって恋をする

くうーたんたん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先生だつて恋をする

【Nコード】

N6541F

【作者名】

くうーたんたん

【あらすじ】

恋人、亮介の携帯に女生徒からのあやしいメールを発見した華子は母校でもある聖カテリナ学院に赴任。先生同士の恋愛を軸にミステリー、ホラー色々な事件を展開していきます。お楽しみに！

ビューティフルティーチャーズ

華子は職員玄関をくぐるとまずは懐かしの校舎をゆっくりと見て回るつもりだった。

歴史ある古い建物のいたるところに思い出が沢山つまっている。校舎の後ろには教会を挟んで生徒達の寮が並んでいる。

華子も学生時代は入寮していた。

名門校の誉れ高い学校なのでわざわざ遠くから入学してくる生徒も多かった。

「おはようございます。」生徒とすれ違うたびみな挨拶していく。昔と同様、しつけには厳しいようね。華子はほほえましく思え、にこやかに挨拶をかえした。

「おはようございます。新任の先生ですね？」後ろから若い男性から声がかかり、華子は少しビクッして振り返った。

おっ！かなりイケメンのお兄さんではないですか！？

「新任の吉岡先生ですか？僕は数学教師の西条です。よろしくお願ひします！」

うんまだ学生みたい端正な顔立ね。

「今日からお世話になりますわ。よろしく」華子は可愛らしくお辞儀した。

西条はポツと頬を染め職員室まで案内してくれたのだが、廊下ですれちがう生徒達の態度がさっきまでとあからさまに違うのだ！

皆、挨拶はするのだが目に殺気というか青い炎のようなものが見える気がした。

うわ。すっかり忘れてた…こういうイケメン教師は生徒からみたら王子なのよね！要らね恨みかう前に退散しなくちゃ。

「西条先生、ここまででいいですわ。私実はここの卒業生なんです」

「なんだそうでしたか？じゃあ僕より詳しいですね。でもあなたみたいな美人と歩いて少し得しちゃったな」

あらあらかなかなか言うじゃない。この坊や…

華子にはっこり微笑んで西条と別れた。

職員室のドアを開けるとそこには先生とは思えないようなイケメンばかりがいるではないか。しかも皆学生かと思うほど若い！

華子は頭がクラクラしてきた。少子化だからどこも生徒獲得の為にいろんな策をこらしているが、これもその一つというわけなのね。

女の先生達はぐっと数が少ない。

うわ。やっていけるかしら？華子の波乱万丈な学院生活はこうして始まった。

地獄からの招待状

華子は校長に挨拶し、自分の机に着いた。

隣は華子と同じ26歳の体育教師、安西由紀であった。

「華子先生って呼んでいいですか？」

気さくで明るい先生ね！

「ええどうぞ。私も由紀先生って呼ぶわね」由紀はこっそり華子に耳うちした。

「うちの学校イケメン先生ばかりでびっくりしたでしょ？」

華子はうんうん！とうなずいた。

「生徒とこっそり付き合ってる先生も多いんですよ。ここだけの話ですけどね。」

こりゃあ楽しい話がいっぱい聞けそうね。亮介の噂もさりげなく聞きだそうっと。

「由紀先生！お昼一緒にランチルームで食べませんか？」

「いいですねー。そうしましょ。」

お昼を告げる鐘がなり華子達はランチルームに移動した。

「ここの定食、デザートまで付いて500円ですよ！私は毎日ここで食べてます。」

さすが体育教師、食べる量も華子の倍だ。定食の他にコロッケまで食べていた。

周りのテーブルでは男子教師を生徒達がぐるりと囲みお喋りに忙しい。

亮介はっと、いたいた！

他の男性教師と同じように女性生徒達に囲まれ差し入れの弁当を食べていた。

あゝあ鼻の下伸ばしちゃって！

あの謎のメールの主はあの中にいるのかしら？

この前二人で久しぶりにデートらしくホテルのカウンターバーで呑んでいた時だ。

携帯のメール受信着信音が鳴り、亮介が携帯を開くと意味不明なメールが入っていたと、華子に見せた。

「お前は死神の掟を破った裏切りものだ！地獄からの招待状をうけとるがいい。」なあにこれ？

華子は画面をのぞきこみながら亮介に聞いたが、亮介はハハハと笑い飛ばし

「どうせ生徒のイタズラだろ。」と全く気にしていない様子だ。華子も

「そうね。」と軽く受け流したが、なんとなく気にはなっていた。みんな明るくてイイコに見えるんだけどなあ…。華子はこの時、まさかこのメールが死の予告状だとは夢にも思っていなかった。

もつと早く気付いていれば大切な人を失わなくてすんだのに…
華子の目から一筋の涙が流れ落ちた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6541f/>

先生だって恋をする

2011年7月15日12時56分発行